



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

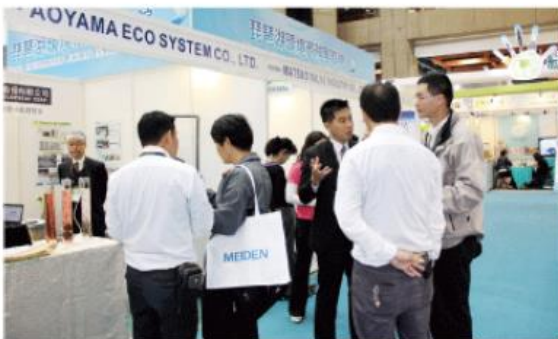
Name of publication: The Daily NNA (Taiwan edition) (14 March 2014, Japan)

Page no.: p. 1-2

Permission was granted by NNA JAPAN Co., Ltd. (株式会社エヌ・エヌ・エー <http://www.nna.jp/>) to post this article on the APO website.

エコプロダクツ国際展が開幕 初の台湾開催、規模は過去最大に

アジア最大となる環境配慮型製品や技術の国際展示会「エコプロダクツ国際展（EPIF）」が13日、台北市で開幕した。世界9カ国・地域から207社・団体が出展し、規模は過去最大となる。日本からは21社・団体が出展し、それぞれの製品や技術、サービスを紹介する。EPIFが台湾で開かれるのは初めて。【大石秋太郎】



滋賀県に本社などを持つ7社がブースを出した「びわ湖環境ビジネスメッセ」のパビリオン＝13日、台北（NNA撮影）

EPIFは東京都に事務局を置くアジア生産性機構（APO）の主催で、加盟国・地域で原則毎年開催され

る。9回目となる今回は、APOの台湾生産性本部（中国生産力中心）と経済部、中華民国対外貿易発展協会（TAITRA）が実施団体となり、台北世界貿易中心（TWTC）の第1展示場（世貿一館）で16日まで開く。

日本からは、滋賀経済産業協会（大津市）や滋賀県などで行う「びわ湖環境ビジネスメッセ」の実行委員会が共同パビリオンを設置。県内に本社や工場を持つ7社が技術力をアピールした。びわ湖メッセは環境関連の展示会として日本で最も長い歴史を持つが、海外での出展は初めて。実行委員会事務局の北川鉄樹局長は「当メッセに参加する中小企業には海外進出を希望するところが多い。こうした企業を支援するため今回の出展を決めた」と話している。

びわ湖メッセのパビリオンにブースを出したアオヤ

（次ページへ続く）

マエコシステム（大津市）は、工場で排出される汚水の処理工程などを紹介した。台湾では今年2月に地場の化学工業大手と代理店契約を結んだばかり。同社の青山章社長は「台湾は半導体関連の企業が多いため、重金属など無機質系排水を対象とした処理装置の需要が高いが、染色加工排水向けの装置などその他の技術も売り込んでいきたい」と意気込んだ。

APOの担当者によると、以前のEPIFでは製造業による製品の出展が多かったが、ここ数年はシステムや金融関連の商品を出す企業が増えている。

ユビテック（東京都品川区）は、オフィス向けの節電・省エネシステムをPR。別の部屋の照明や空調を、パソコン（PC）やタブレット端末を使って遠隔操作したり、使用時間を設定したりできる商品で、スイッチの消し忘れ防止や電力消費の削減につながる。マーケティング本部の荒井誠主任によると、台湾では既に不動産仲

介大手の信義房屋の本社ビルで導入されており、これが海外初の販売実績となった。近く台湾拠点の設立も検討中で、台湾のソフトウェア企業などと協力して将来は中国市場の開拓も狙う。

三井住友銀行（SMB C）は、金融機関として唯一、今回のEPIFに出展。環境に配慮した活動を行っている企業に優遇金利で融資する「SMB C—ECOローン」や、行内で実施している環境に対する取り組みを紹介した。

台湾からは、166社・団体が出展した。APOの担当者によると、他の国と比べて地方政府など公的機関の出展が目立つという。台北市は、自転車大手の巨大機械（ジャイアント）などと展開する自転車のレンタルサービス「ユーバイク（微笑單車）」などを紹介。このほか、新北市や高雄市、桃園県などの地方政府や、經濟部や行政院農業委員会などもブースを出した。